

令和7年度 鹿児島県小・中学校長研究大会開催要項

大会主題

「あしたを拓き、心豊かでたくましく生きる人間の育成を目指す学校教育の創造」

I 趣 旨

今日、我が国においては、知識基盤社会の進展や国内外における競争の激化など社会が大きく変化していく中で、幸福な生涯を実現するため未来を主体的に切り拓き、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間の育成が求められている。また、国家や社会の形成者としての資質を備えた日本人を育成し、我が国が一層の発展を遂げ国際社会に貢献していく上でも、教育の果たすべき役割・使命は極めて大きいものがある。

学校教育においては、自分の夢や希望の実現に向けて意欲的に挑戦するたくましい子供を育成するとともに、社会の一員としての自覚と責任を育むことが責務である。そのためには、21世紀をたくましく生き抜く原動力となる確かな学力、豊かな心、健やかな体など「生きる力」を調和的に育成することが不可欠である。

義務教育は、「生きる力」の基盤づくりとして重要な役割を担っている。そのために、我々小・中学校長は、学校の最高責任者としての使命を自覚し、鋭い先見性と揺るぎない教育理念をもち、明確な学校経営ビジョンを確立する必要がある。また、学校経営の実際に当たっては、リーダーシップを十分に発揮して、創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価・改善及びその公表等を行い、県民の期待と信託に応えることに全力を傾注しなければならない。

新学習指導要領への対応や学校現場における業務改善が求められる今日、本研究大会は、これまでの研究を基盤とし、県下の小・中学校長の総意を結集し、主題に迫る具体的な学校経営の在り方を校長の立場で究明して、本県学校教育の充実・発展を図ろうとするものである。

II 主 催 鹿児島県連合校長協会

III 共 催 鹿児島県教育委員会 鹿児島県市町村教育委員会連絡協議会

IV 後 援 公益社団法人 日本教育会

V 期 日 令和7年11月14日(金)

VI 会 場 宝山ホール、カクイックス交流センター、県立図書館 県教職員互助組合会館、鹿児島市教育総合センター

VII 日程等

1 受付	8：30～9：00
2 日程説明	9：00～9：05
3 開会行事	9：05～10：00
(1) 開式のことば	(6) 来賓紹介
(2) 国歌斉唱	(7) 祝電披露
(3) 開会のあいさつ（小学校部会長）	(8) 研究経過及び大会宣言文案報告
(4) 県教育長講話	(9) 閉式のことば
(5) 祝辞（知事メッセージ）	

4 講演（70分） 10：15～11：25

- ◇ 演 題 「P T Aの歴史と描く未来 ～大人も子供も笑顔で支え合い～」
- ◇ 講 師 太田 敬介 氏 〔公益社団法人日本P T A全国協議会 第43代会長〕

〈 移動・昼食・休憩 〉 (80分)

5 分科会

- (1) 分科会の説明 12：45～12：50
- (2) 分科会Ⅰ（80分） 12：50～14：10

- ① 研究発表 (20分)
- ② 質疑応答 (10分)
- ③ 研究協議（グループ協議）(40分)
- ④ まとめ (10分)

〈 準 備 〉 (15分)

- (3) 分科会Ⅱ（80分） 14：25～15：45

- ① 研究発表 (20分)
- ② 質疑応答 (10分)
- ③ 研究協議（グループ協議）(40分)
- ④ まとめ (10分)

- (4) 指導助言 (20分) 15：45～16：05

6 閉会行事（各分科会場で閉会） 16：05～16：10



※ 会場

◇全体会会場 宝山ホール（1500席）

◇小学校分科会場（4人一組グループ形式）

小学校分科会		会 場			人数
1	学校経営	宝山ホール	第3会議室	2 F	66名
2	教育課程		第4会議室	3 F	48名
3	教職員の資質向上		第5会議室		49名
4	知性・創造性		第6会議室	4 F	62名
5	心の教育	カクイックス交流センター	大研修室3		56名
6	健康・安全教育		中研修室3	2 F	58名
7	人権教育・特別支援教育	県立図書館	第1研修室		55名
8	社会形成能力		第3研修室	3 F	55名

◇中学校分科会場（4人一組グループ形式）

中学校分科会		会 場			人数
1	教育課程・評価の工夫	県教職員互助組合会館	中会議室	3 F	38名
2	教職員の資質向上		小会議室		38名
3	道德教育・人権教育	鹿児島市教育総合センター	研修室1・2・3	3 F	36名
4	キャリア教育・生徒指導		体 育 室		35名
5	開かれた学校づくり		女性第1・2研修室	2 F	37名

令和7年度 分科会の研究主題・協議題及び運営等

1 小学校部会

分科会		研究主題	趣 旨	協 議 題（副題）	司 会 者	発 表 者	記 録 者	世 話 係	指導助言者	会場・参加人数
第一分科会	学校経営	先見性のあるビジョンに基づく創意ある学校経営の推進	子どもたちに確かな学力や豊かな人間性、健康や体力などの「生きる力」を育んでいくためには、それぞれの学校の歴史や伝統、地域性などを尊重しながらも、進取の気風や積極性にあふれた活力ある学校づくりを目指すことが重要である。同時に、「学校評価ガイドライン」の趣旨を生かした学校評価を実施し、説明・結果責任を果たすとともに常に学校経営の改善を図っていくことが緊要である。 ここでは、活力あふれる学校づくりを目指すための学校経営ビジョンの実現や学校評価の在り方・生かし方等について究明する。	(1) 学校経営ビジョンの実現を目指した学校運営の推進	鹿児島市C 川 畑 敏 彦 (紫原小)	鹿児島市C 濱 崎 忠 雄 (中郡小)	鹿児島市C 大 給 善 仁 (東昌小)	研究常任部員 新屋 公彦 (原良小) 鹿児島市C 下屋敷由貴子 (西紫原小) 始良・伊佐 田中 雄志 (国分小)	県教育庁 義務教育課 企画調査係 主任指導主事兼係長 前 保廣	宝山ホール (第3会議室) 66名
				(2) 学校評価の在り方と評価を生かした学校経営の改善	始良・伊佐 大 山 政 弘 (天降川小)	始良・伊佐 川 野 浩 明 (国分北小)	始良・伊佐 瀬戸山 文 隆 (青葉小)			
第二分科会	教育課程	地域のよさを生かし、「生きる力」を育む特色ある教育課程	一人一人の子どもの「生きる力」を育む教育課程の編成・実施に当たっては、子どもの実態及び心身の発達段階や特性を十分考慮するとともに、地域の自然や文化、伝統等に触れるなど、学校や地域のよさを生かした特色ある教育活動の展開を図る教育課程を編成・実施・評価することが重要である。 ここでは、地域のよさを生かした特色ある教育課程と複式・小規模校の特性を生かした教育課程の両面から「生きる力」を育む教育課程の在り方を究明する。	(1) 地域のよさを生かした特色ある教育課程の編成・実施と評価	始良・伊佐 川久保 浩 史 (霧島小)	始良・伊佐 中 園 明 男 (佐々木小)	始良・伊佐 松 元 美 和 (安良小)	研究常任部員 竹下 公博 (荒田小) 始良・伊佐 佐々木祐介 (永水小) 大 島 長井 忠寅 (知名小)	県教育庁 義務教育課 企画調査係 主任指導主事 帖地 宏治	宝山ホール (第4会議室) 48名
				(2) 複式・小規模校の特性を生かした教育課程の編成・実施と評価	大 島 畦 元 千穂子 (田皆小)	大 島 西 啓 亨 (下平川小)	大 島 川 畑 めぐみ (上城小)			
第三分科会	教職員の資質向上	学校の教育力を向上させる研究・研修の充実とこれからの学校を担うリーダーの育成	今日、学校には、「新たな知を拓く」教育の実践や様々な教育課題への対応が求められ、その解決に向け、学校の教育力を高めていくことが重要になってきている。学校教育目標等の具現化に向けて、教職員一人一人の力量を高め、学校組織としての教育力を向上させていくことが学校経営の最重要課題である。そのためには、サービスやキャリアステーションに応じて求められる資質・能力を生涯にわたって高めていけるように研究・研修体制を充実させていくことが大切である。併せて、学校を組織的に運営していくための大きな役割を果たすミドルリーダーの存在がますます重要になってきており、その育成が急務である。 ここでは、教職員一人一人の特性を把握し、必要とされる資質・能力を具備した人材を発掘して、意図的・計画的に育成していくことのみならず、併せて、組織的な学校運営を推進していくために学校全体を統括・指導する有能なミドルリーダーや管理職人材を計画的に育成していく具体的な方策を究明する。	(1) キャリアステージに応じた資質・能力や学校経営への参画意識の向上を図る研修の推進	北 薩 米 丸 寛 之 (城上小)	北 薩 岩 元 秀 光 (高来小)	北 薩 永 田 昇 (八幡小)	研究常任部員 平川 貴之 (清水小) 北 薩 大園 清子 (可愛小) 大 隅 佐藤 義明 (柳迫小)	県教育庁 教職員課 小中学校人事管理係 主幹兼係長 栗山 義人	宝山ホール (第5会議室) 49名
				(2) 社会の変化をとらえる能力と豊かな人間性を身に付けたミドルリーダーの育成や管理職人材の育成	大 隅 小 原 和 博 (月野小)	大 隅 福 満 健 二 (深川小)	大 隅 西 咲 子 (笠木小)			
第四分科会	知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	今日、暮らしはもとより産業や経済などあらゆる分野の変革の動きが加速し、知識基盤社会やグローバル化も確実に進展している。このような中、子どもは、自他としつかり向き合いながら自分を見失うことなく、社会の変化に柔軟に対応し、自信をもって自らの夢と希望の実現に向け、たくましく生き抜く力を身に付けていくことが求められている。 ここでは、校長のリーダーシップのもと、子どもが豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように、しなやかな知性と豊かな創造性を育成する「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントについての具体的な方策を究明する。	(1) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組	鹿児島市A 大 迫 誠 (桜峰小)	鹿児島市A 宮 里 英 樹 (城南小)	鹿児島市A 大 重 守 (桜州小)	研究常任部員 宮脇 一郎 (松元小) 鹿児島市A 野口 貴弘 (本名小) 北 薩 井芹 賢二 (樋脇小)	県教育庁 義務教育課 義務教育係 指導主事 久徳 晋也	宝山ホール (第6会議室) 62名
				(2) しなやかな知性と豊かな創造性を育む教育活動を実現するカリキュラム・マネジメントの推進	北 薩 川 添 正 和 (副田小)	北 薩 岡 留 一 正 (祁答院小)	北 薩 松 原 葉 子 (入来小)			
第五分科会	心の教育	望ましい人間関係や規範意識を育てる心の教育	いじめ・不登校、非行などの状況は複雑多様化しており、思いやりの心の欠如、社会性や規範意識の低下など憂慮すべき教育上の問題が生じている。そのため、全教育活動を通して、子ども一人一人に自己存在感・自己有用感をもたせるとともに、望ましい社会性や規範意識を身に付けさせ、思いやりや正義感等豊かな心を育てていくことが重要である。 ここでは、個の自律を促し、お互いを尊重し、共に認め合う望ましい人間関係を育てる生徒指導の在り方や体験活動を通した豊かな心の育成、家庭や地域社会との連携を密にした道德教育の更なる充実のための方策を究明する。	(1) いじめや不登校等に適切に対応できる体制の整備と高い危機管理能力をもつ組織・体制づくりの推進	北 薩 平 峯 剛 (平尾小)	北 薩 黒 川 周 一 (川床小)	北 薩 中 村 勲 (蔵之元小)	研究常任部員 林 耕二 (東谷山小) 北 薩 西留 敦朗 (鷹巣小) 鹿児島市D 藤崎 隆博 (福平小)	県教育庁 高校教育課 学校教育生徒指導班 指導主事 赤石 裕樹	カクイックス 交流センター (大研修室3) 56名
				(2) 豊かな体験活動及び家庭や地域社会との連携を重視した道德教育の推進	鹿児島市D 坂之上 辰 志 (谷山小)	鹿児島市D 日 置 正 齊 (平川小)	鹿児島市D 中 村 宗 義 (和田小)			
第六分科会	健康・安全教育	健やかで、たくましく生きる力を育む健康・安全教育	社会環境や生活環境の急激な変化によって、学校保健、食育・学校給食、学校安全には様々な課題が生じている。学校における安全・安心な環境が確保され、子どもたちが心身ともに健やかに成長していくためには、健康・安全教育の確かな指導体制を築くことが極めて重要であり、社会の変化に対応した新しい取組が求められている。 ここでは、家庭や地域との連携を深めながら、子供一人一人が主体的に体力・健康づくりに取り組み、生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う健康・安全教育の在り方を究明する。	(1) 自ら進んで心身を鍛え、たくましい心と体を育てる健康教育の推進	南 薩 大 園 和 浩 (松山小)	南 薩 奥 野 裕 樹 (霜出小)	南 薩 今 屋 厚 造 (中福良小)	研究常任部員 中鉢 吉彦 (伊敷台小) 南 薩 比志島 寿 (知覧小) 大 隅 岩下 勝也 (波野小)	県教育庁 保健体育課 健康教育係 指導主事兼係長 永田 悦子	カクイックス 交流センター (中研修室3) 58名
				(2) 自ら危険を予知し、安全に行動する能力や態度を育てる安全教育の推進	大 隅 牧 本 佳代子 (池之原小)	大 隅 橋 口 大 士 (柏原小)	大 隅 畠 野 裕 昭 (高山小)			
第七分科会	人権教育 特別支援教育	人間尊重の精神に基づき、共に生きる子どもを育てる人権教育及び特別支援教育	人間尊重の精神に基づく心豊かな社会を実現するために、基本的な人権を尊重し、公平・公正な態度で共に生きる力を育てる人権教育の充実、学校教育が解決すべき重要な課題である。 ここでは、偏見や差別をなくしていく意欲と実践力を育てる人権教育の在り方を究明する。 特別な支援が必要な子どもの立場に立って、教育的ニーズを把握し、必要な支援を行い、一人一人の能力を最大限に伸ばすとともに、自立や社会参加のための基盤を培うことが求められている。 ここでは、特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方を究明する。	(1) 自他を大切にすることや実践力を育てる人権教育の推進	始良・伊佐 久木崎 晃 誠 (西浦小)	始良・伊佐 白 水 理 恵 (漆小)	始良・伊佐 馬 場 修 身 (蒲生小)	研究常任部員 峯元 清年 (花野小) 始良・伊佐 有村 和章 (柵城小) 大 隅 池之上敬一 (志布志小)	県教育庁 特別支援教育課 小中等学校係 主任指導主事兼係長 前田 博美	県立図書館 (第1研修室) 55名
				(2) 子どもの教育的ニーズに応え、一人一人が生き生きと輝く特別支援教育の推進	大 隅 有 村 修 一 (山重小)	大 隅 小 峯 三 朗 (安楽小)	大 隅 新 村 篤 (通山小)			
第八分科会	社会形成能力	社会形成能力を育む教育の推進	これからの社会は、「将来の予想が困難な複雑で変化の激しい社会」と予測され、このような社会の到来は、子ども自らの将来の捉え方にも大きな変化をもたらしている。とどまることなく変化する社会の中で、子供が夢や目標をもって積極的に自分の将来を切り拓いて生きていくためには、社会の変化を怖れず粘り強く前進し、失敗しても諦めず変化に対応していく力と態度を育てていくことが不可欠である。 ここでは、学校において、これからの社会を創りあげていくために必要な知性や創造性ととともに、豊かな人間性を身に付けさせるために、他者を認めつつ、他者と協力することの大切さを教え、よりよい社会を協働して形成しようとする態度や能力を育む教育の在り方を究明する。	(1) 社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進	日 置 田 平 奈保美 (鶴丸小)	日 置 田 中 竜 夫 (美山小)	日 置 長 崎 克 則 (湯田小)	研究常任部員 橋元 忠史 (附属小) 日 置 北 洋昭 (伊作田小) 熊 毛 吉國 耕二 (野間小)	県教育庁 義務教育課 義務教育係 主任指導主事 塩満 貞徳	県立図書館 (第3研修室) 55名
				(2) 自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進	熊 毛 池 田 陽 子 (油久小)	熊 毛 米 村 圭 史 (星原小)	熊 毛 芝 原 に ほ (南界小)			

2 中学校部会

分科会		研究主題	趣 旨	協 議 題	司会者	発表者	記録者	世話係	指導助言者	会場・参加人数
第一分科会	教育課程・評価の工夫	「生きる力」を育成する教育課程の編成・実施・評価	生徒一人一人に応じたきめ細かな指導や体験活動等の充実を通して、確かな学力や豊かな人間性などの「生きる力」を育み、新しい時代を拓くことのできる知・徳・体の調和のとれた人間を育てることが求められている。 そのためには、各学校が創意・工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施・評価を確実にを行い、充実した教育活動を展開していくことが重要である。具体的には、基礎・基本の定着や学ぶ意欲、自ら考え主体的に判断する力等の確かな学力の向上、指導と評価の一体化を目指した適正な評価の在り方について研究を深める必要がある。	(1) 知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施・評価	南 薩 舞 田 裕 二 (山川中)	南 薩 平 川 淳 一 (西指宿中)	南 薩 久 徳 寛 司 (開聞中)	研究常任部員 内 真奈美(緑丘中)	県教育庁 義務教育課 義務教育係 主任指導主事兼係長 假屋 一成	教職員互助組合会館 (中会議室) 38名
				(2) 主体的な学びを育てる多様な評価方法の工夫と学習の充実	大 隅 北 村 亜希仁 (高隈中)	大 隅 上 村 勉 (吾平中)	大 隅 堀 内 隆 史 (輝北中)	南 薩 川畑 哲也(南指宿中) 大 隅 霜田さおり(串良中)		
第二分科会	教職員の資質向上	教職員の意識改革と資質能力の向上	学校は、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成に加え、いじめ・不登校など生徒指導上の諸問題への対応、特別支援教育の充実など複雑かつ多様な課題に対応するなど、教師力の向上が求められている。 そのためには、マネジメント力を有する校長の強力なリーダーシップのもと、専門職としての高度な知識・技能を身に付ける意図的・計画的な校内研修をはじめ学校内外の研修を通して教職員の資質能力の向上を図っていく必要がある。また、教職員一人一人の職務遂行上の意欲、能力、実績等の評価を通して、学校組織を活性化させる人事評価制度の効果的な運用とその研究、並びに評価者としての資質能力の向上について研究を深める必要がある。	(1) 教師力の向上を目指した研修の充実	始良・伊佐 阿多石 英 樹 (国分中)	始良・伊佐 田 代 正 広 (木原中)	始良・伊佐 田 中 伊礎子 (牧之原中)	研究常任部員 森 拓郎(南 中)	県教育庁 教職員課 小中学校人事管理係 主幹 重信 一男	教職員互助組合会館 (小会議室) 38名
				(2) 自己成長を促す人事評価制度の効果的な運用	大 隅 原 憲 正 (内之浦中)	大 隅 瀬戸口 浩 司 (高山中)	大 隅 花 田 豊 (国見中)	始良・伊佐 川畑 勇司(舞鶴中) 大 隅 拔水 茂樹(波野中)		
第三分科会	道徳教育・人権教育	豊かな心を育み、人間尊重の精神と実践力を育てる道徳教育と人権教育	思いやりの心の欠如や倫理観・規範意識の低下など、生徒の心の問題は依然として憂慮すべき状況にあり、道徳的实践力を高める道徳教育の充実や同和教育をはじめとする人権教育の充実が求められている。 そのためには、学校は道徳の時間の充実とともに、豊かな自然体験や社会体験等の活動を取り入れ、すべての教育活動を通して道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深めさせる必要がある。また、人間尊重の精神を基盤に据えた指導に努め、生徒一人一人の人権意識を高めるとともに、偏見や差別をなくしていこうとする意欲と実践力を育てる教育の充実について研究を深める必要がある。	(1) 道徳的实践力を育てる道徳教育の推進	大 島 税 所 篤 哉 (和泊中)	大 島 吉 松 浩 志 (与論中)	大 島 福 永 修 一 (知名中)	研究常任部員 大田恭一郎(福平中)	県教育庁 人権同和教育課 主任指導主事 福 雅彰	鹿児島市教育 総合センター (研修室1・2・3) 36名
				(2) 自他を大切にする心や実践力を育てる人権教育の推進	北 薩 小 島 士 郎 (平尾中)	北 薩 副 田 明 彦 (長島中)	北 薩 秦 一 成 (川床中)	大 島 川井 功作(小宿中) 北 薩 川南 泰志(鯨島小中)		
第四分科会	キャリア教育・生徒指導	生き方の自覚を高めるキャリア教育と生徒指導	生徒一人一人の勤労観・職業観を育て、社会的・職業的自立を目指す教育を推進するためには、生徒の発達段階や系統性を踏まえ、多様な実践的・体験的な活動を計画的、組織的、継続的に進めることが大切である。また、心身の発達に配慮した望ましい集団活動を通して、自律的・実践的な態度を育てることが大切である。 そのためには、進路指導において生徒の自己実現に向けた意欲付けと、全教育活動を通してキャリア教育の充実を図る必要がある。また、社会の一員としての自覚を高め、将来にわたって生徒自らが自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指した積極的な生徒指導について研究を深める必要がある。	(1) 目標をもち自己実現を図るキャリア教育の系統的推進	鹿児島市D 中 村 克 己 (谷山北中)	鹿児島市D 岩 城 靖一郎 (和田中)	鹿児島市D 益 満 裕 美 (星峯中)	研究常任部員 本山 和仁(吉田北中)	県教育庁 義務教育課 企画調査係 指導主事 古定 周	鹿児島市教育 総合センター (体育室) 35名
				(2) 豊かな人間性や社会性を育む生徒指導の充実	北 薩 橋 野 正 毅 (鶴荘学園)	北 薩 眞 正 基 道 (出水中)	北 薩 鷺 見 博 生 (高尾野中)	鹿児島市D 山下久美子(皇徳寺中) 北 薩 福島 三鈴(江内中)		
第五分科会	開かれた学校づくり	家庭や地域の信頼に応える「開かれた学校」づくり	学校は、その目的を達成し、地域住民の信頼に応えるために、家庭や地域社会と連携し積極的に教育活動を展開しながら、地域に開かれた学校づくりに努めることが重要である。 そのためには、学校の教育活動や学校の運営実施状況について、自己評価したり学校関係者評価(外部評価)等を行ったりして、その結果を保護者や地域に説明するとともに、学校経営の改善に生かす必要がある。また、外部の人材を活用したり、学校の施設や学習の機会を提供したりするなど、地域社会との連携の在り方について研究を深める必要がある。	(1) 地域社会と連携した信頼される学校づくりの推進	始良・伊佐 大 平 紀 博 (山田中)	始良・伊佐 富 永 英 明 (蒲生中)	始良・伊佐 田 島 正 晴 (帖佐中)	研究常任部員 岩脇 勝広(甲南中)	県教育庁 教職員課 小中学校人事管理係 専門員 益満 陽平	鹿児島市教育 総合センター (女性第1・2研修室) 37名
				(2) 教育課程の自己点検・自己評価等と学校関係者評価(外部評価)の充実	鹿児島市C 松 本 遵 (西紫原中)	鹿児島市C 五反田 晴 夫 (松元中)	鹿児島市C 今 井 誠 (天保山中)	始良・伊佐 塩津 一弘(重富中) 鹿児島市C 溜 清弘(附属中)		